

《洋間》

表玄関を入ってすぐのこの部屋は、住宅棟唯一の洋間で、応接間・書斎として使用されていた。

ステンドグラスの窓の間には大理石のマントルピース（暖炉）が見られるが、屋根に煙突がないことからわかるように、これは電気式。シャンデリアはフランスからの輸入品だが、天井は漆喰仕上げ、壁紙は和紙をドイツで絹のようにプレス加工したものを逆輸入したものと、東西の技術が結集された洋間である。平成の改修時には、壁紙や壁のパイピングコードは剥がして清掃補修し、オリジナル品を再使用している。

洋家具の配置は建築当時のままで、昭和初期の雰囲気を与えている。客人が訪れた際は、暖炉の前に主人と主賓のみが座り、他の人々はその周りに座った。

外壁は尾州檜の板囲いで、四方柱目の柱を使用している。